

日本医療機能評価機構認定病院

2008
Jan



公立山城病院新聞

YAMASHIRO PUBLIC HOSPITAL

発行元 公立山城病院
発行元責任者 中笠 幸治

副管理者 年頭のご挨拶



副管理者
石田大志

皆様、明けましておめでとう
ございます。

ご承知いただいておりますよ
うに、山城病院及び老人保健施
設やましろは、木津川市、笠置
町、和束町、南山城村で構成す
る特別地方公共団体が運営する
保健医療施設であります。

従いまして、当地域における
他の施設や行政機関等と連携を
図り、常に、地域の発展に貢献
することを使命といたしております。
このため、住民の皆様の
ニーズに対応した適切な医療・
介護を提供するとともに、高
度・特殊・先駆的医療等を積極
的に担っていく必要があると考
えております。

加えて、地域医療水準の向上
や地域住民の皆様が、安心して
医療や介護を受けられる環境の
整備並びに効率的な施設運営に
日夜努める必要があります。

しかしながら、近年の慢性的
な医師不足の状況に加え、病院
勤務医の労働過重や看護師不足
の問題は、一層深刻となってお
り、病院経営の環境は誠に厳し
いものがあります。これらの問
題は、開設者である構成団体と
病院だけで改善することは極め
て困難であり、関係機関の絶大
な支援が欠かせない状況にあり
ます。

こうした中、当山城病院も、
昨年、整形外科の診療縮小問題
が発生し、皆様方には多大の御
不便をかけるとともに御心配を
いただき大変心苦しく思ってお
ります。現在、京都府や京都府
立医科大学に対し、鋭意要望を
続けているところでありますの
で、何卒ご理解賜りますようお願い
申し上げます。

また、老人保健施設やましろ
も、入所者が順調に増加してき
ているものの、まだまだ経営的
には努力が必要であると考えて
おります。

このような状況の中、本年は、
わが国の経済政策や医療政策を
理解しつつ、病院及び老人保健

施設が、地域において良質な医
療や介護を安全かつ継続して提
供できるよう、努力する決意を
新たにいたしているところであ
ります。

最後になりましたが、皆様方
の、今後のますますの御発展、
御健勝を祈念いたしますととも
に、あい変わります、暖かい
ご支援を賜りますようお願い申
し上げ、新年の挨拶といたしま
す。

院長 年頭のご挨拶



院長
中笠幸治

皆様、明けましておめでとう
ございます。今年も良き年であ
りますように心からお祈り申し
上げます。

地域住民の皆様方より、ご利
用・ご支援を頂き誠にありがと
うございました。さて、電子カ
ルテシステム導入から1年が経
過し、外来・入院運営が円滑に
行われるようになりました。ま

た、平成17年9月に購入した
64列マルチスライスCT撮影
装置をはじめ各種の検査機器の
整備とスタッフの医療技術の進
歩により、種々の病気のよりの
確な診断・治療に加え、早期診
断・早期治療が行われ皆様に喜
んで頂いております。さらに良
質な医療提供のため、本年度も
新しい検査機器購入を予定して
います。

ところで、当院の医師不足・
過剰労働の状態は完全に解消さ
れておりません。整形外科では、
皆様に救急診療を受けていただ
くことができません。しかし、
今後も「地域の中核公立病院と
して良質な医療を提供するこ
と」を使命として、職員一同努
力研鑽に励んでいきます。

当院が公立病院として存続し
ていくためには、皆様方のさら
なるご支援・ご理解が必要で
すので、なにとぞよろしくお願
い致します。



総看護師長 年頭の「挨拶」



総看護師長
中村 ひふみ

新年あけましておめでとうござい
ます。年の初めにあたり、みなさま
のご健勝とご多幸を心よりお祈り申
し上げます。

昨年の当院の動きを振り返ります
と、「医師不足」といわれる中で、春
には小児科医師が2名から3.5名と
増員して小児医療の安定を図り、ま
た内科医師も増えました。

さらに、教育活動においては、院
内外での研究成果を数多く発表する
機会も得られました。また、新しく
誕生した市、町村の運営いたします
公的病院で病院として住民の皆さま
の健康についての医療フォーラムも
2回開催いたしましたところ、ご参
加頂きました皆さまからあらたなテ
ーマでの医療フォーラム開催へのご
賛同やご要望もいただき、とても嬉
しくご期待にお答えして参りたいと、
関係者一同を引き締めております。
また、ボランティア活動では、こ

ころのふれあいも大切に、との願い
から住民の皆さまのご協力により
「オカリナ演奏」、職員による「クリ
スマスコンサート」を開催し、入院
患者さまとの垣根を越えた「癒し」
を共有することが出来ました。

秋には、救急医療体制の問題によ
り、住民の皆さまからのご期待に充
分お答えできない結果となりました。
しかし、近隣4校の中学生を職場体
験に受け入れましたところ参加しま
した中学生の皆さんから、「将来医
者になる」「看護師になる」「この病
院で働きたい」等のうれしい声もた
くさんお聞きいたしました。

近い将来、山城病院で地域を受す
る若い世代が働きたいとの夢を叶う
のに、ふさわしい病院づくりの皆さ
まとともに取り組んで参りたいと存
じます。

今年も相変わりませず、暖かいご
支援とご指導を祈念申し上げます。



中学生職場体験



「この建物の中にあふれる光を感じ
ました。人の人生に携わることので
きる素敵な場所だと感じました。」

田中 芳樹

「赤ちゃんの粉ミルクをなめました
が、おいしくなかったです。赤ちゃ
んはこれを飲んでいいのかと思いま
した。」

酒井 翔真

「白衣を着て医者気分になれてう
れしかったです。」

川端 智輝

「自分のイメージとは違ったところ
がたくさんあって勉強になりました。
た。」

高林 良江

「私は看護師になりたいと思ってい
るので、山城病院で働きたいです。」

甲斐 有貴

「新生児室で生まれたばかりの赤ち
やんを抱いて、かわいいなと思いま
した。」

栗生 麻由

順不同

近隣4校（木津中学校・木津第二
中学校・山城中学校・笠置中学校）
の学生さんを職場体験に受け入れま
した。新鮮で希望に満ち溢れている
姿は、私達職員も刺激を受けました。
今回は、職場体験をされた4校のう
ち、山城中学校の学生さんからの感
想の一部を紹介します

第2回住民医療

フォーラム開催報告



爽やかな秋風が心地良い、去る11月9日(金)14時~16時山城病院9階会議室において、第2回住民医療フォーラムが開催されました。住民医療フォーラムは当院教育委員主催の地域住民・病院職員対象の教育活動です。今回はメインテーマを「(一)婦人の癌にご用心」とし、二つ

のテーマで講演頂きました。

一つ目は「卵巣癌・子宮癌の早期発見」と題し、産婦人科澤田部長の講演でした。早期子宮癌の51%は自覚症状がなく、出血してからの受診では進行している事が多いとの事です。又、卵巣癌は増大してから下腹部膨満で気付く事もあるそうです。検診は綿棒やヘラで子宮腔部を擦るだけなので、決して痛くありません。下腹部の膨満を「ただの肥満」、不正性器出血を「月経」と勘違いしていませんか?気になる方は即受診を。二つ目は「乳癌・甲状腺癌の早期発見」と題し、乳癌・内分泌外科中井副院長の講演でした。乳癌は予防が難しく、早期発見が大切です。自己視触診の方法を教えてくださいました。鏡に映った乳房にひきつれや窪み・乳頭から色のついた分泌物・胸や脇の下にしこりはありませんか?不安を感じたら即受診を。ちなみに、京都府下で一番先にマンモグラフィーを開始したのは、加茂町だそうです。**癌検診は三害(料金・時間・手間)あって、百利(癌の発見)あり。**無症状のうちには是非検診を受けましょう。

参加者は39名でした。「楽しく、

分かり易かった。」「甲状腺の話をもっと聞きたかった。」などのご感想を頂きました。

(6階病棟看護師長 山際)

第7回

あじさい会開催報告

あじさい会とは、乳癌の手術を受けられた患者様の公立山城病院の患者会です。2004年から年2回、定期的で開催してきました。今回は日時が第2回住民医療フォーラムと近く、内容的にも女性を対象としたものであり、合同で参加させて頂く事となりました。14時開催のところ13時30分には早々に集合。お互いが顔馴染みの方も多く、フォーラムに集まった中で、ひときわ賑やかな雰囲気でしました。

健康に対してはとても熱心で、二つのテーマに皆うなずいたり、笑ったり、積極的に参加されていました。今回は恒例の茶話会がなかったので、少し話し足りない感じもありました。が、「興味深い内容で勉強になっ

た。」という感想も頂きました。

参加者は18名。通常土曜日に開催していましたが、今回金曜日だった為、仕事や家事の都合で残念ながら参加できない方もおられました。

次回は2008年6月7日(土)の予定です。今回参加できなかった方も是非、多数お越し下さる事をお待ちしております。

(6階病棟看護師長 山際)



第6回生活習慣病 フォーラム開催報告

10月28日(日)山城病院9階会議室において、第6回生活習慣病フォーラムが開催されました。

昨年度マスコミ等で、メタボリックシンドロームについて取り上げられることが多くなり、知識も豊富になってきているようですが、実際にどうすれば内臓脂肪を減らすことができるか?ということがなかなか難しい問題になっています。中院長の講演では、内臓脂肪とはなにか?減らすとどんな効果があるか!日々の中でなにが大切なのか等の話があり、その話を聴いた上で日々簡単にできる運動を、リハビリ療法士の指導のもと出席者全員で行いました。食事面では栄養士より、エネルギーダウンの工夫について、一人一人指導されていました。そして出席者が内臓脂肪を測定し、今現在の状態を知ってもらい、生活習慣の見直しをしてもらうきっかけとなったのではないかと思われれます。



今後も病院での予防的な啓発活動は大切であり、地域の皆様に、健康を維持するにはなにが必要かを考えてもらえたのではないかと感じます。今回の出席者は46名でした。出席いただいた皆様ありがとうございました。いろいろ不行き届きな面があり迷惑おかけしました事を心よりおわび申し上げます。

(8階病棟看護師 澤田)

「院外処方箋」発行のお知らせ

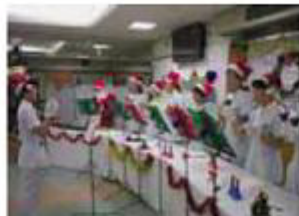
当院では平成20年3月1日から、外来受診の患者様に全面院外処方箋を発行させていただきますことになりました。

患者様は外の保険薬局(調剤のできる薬局)でお薬をもらっていただくこととなります。ご理解とご協力をお願いします。

病院の薬剤師は抗がん剤の混合製剤(ミキシング)や服薬指導等の業務をより充実していき、入院の患者様へチーム医療の一員として質の高い医療の提供に努めます。

☆院外処方箋の流れ





クリスマス コンサート

昨年12月19日、当院の外来フロアーで、クリスマスコンサートが開催されました。

当院スタッフ及びボランティアの方による、ハンドベルとフルートの演奏で、クリスマスソングを中心に披露されました。通院・入院生活を送られている患者様や看病されている家族の方のために、何かできることはないかと考え企画しました。

当院では、癒しを感じていただけるように、今後も様々なイベントを企画していきたいと考えています。

(広報委員 森)



～年末年始に食べ過ぎたら、料理にひと工夫を～

年末年始は、ごちそうを食べる機会が多くなり「つい普段より食べ過ぎてしまった」といったことになりがちです。そのような場合は、肉や魚などの量を普段より減らして食べ、野菜を意識して多く摂るよう心がけて下さい。また、油を使用した高エネルギーの料理を控えることも大切です。油やバターを他の調味料に置き換えることでエネルギーを減らしましょう。

<油脂を減らしてエネルギーをおさえる工夫をしたメニュー>

◆ 鶏肉とかぶの味噌シチュー ◆

【材料（2人分）】 1人分（エネルギー257kcal、塩分2.5g）

鶏もも肉(皮なし)150g、 塩・こしょう 少々、 玉ねぎ 1/2個、

バター 小さじ1/2個、 小麦粉 大さじ1、

にんじん 1/3本、 かぶ 2個、 かぶの葉 30g、 エリンギ(またはその他のきのこ)

牛乳 1/2カップ、 みそ 大さじ1、 こしょう 少々、 プイヨン1/2個+水1と1/2カップ

【作り方】

- ① 鶏肉は1口大に切り、塩とこしょうをまぶす。
- ② 玉ねぎは角切り、にんじんは輪切り、かぶはくし形切り、エリンギは薄切りにする。かぶの葉はさっとゆで3-4cmに切る。
- ③ なべにバターを溶かして、玉ねぎを炒め、小麦粉を加えて炒め合せ、プイヨン、にんじん、かぶを入れて煮立ったら鶏肉を加えてふたをし、弱火でときどき混ぜながら約15分煮る。
- ④ にんじんがやわらかくなったら、かぶの葉・みそをいれ、牛乳を加えてひと煮立ちさせ、こしょうで味を整える。



公立 山城病院

〒619-0214

京都府木津川市大字木津

小字池田 74 番地の 1

Tel 0774-72-0235

Fax 0774-72-2155

予約変更時

Tel 0774-72-2314



公立山城病院 広報委員会

平成も20年目となりました。年月が経つのも早いものです。ここ数年で、平成生まれの社会人も目立つようになってくるのでしようね。

節目の年として、皆さんにとって、良い年となることを、心からお祈りしています。

編集後記

診療科紹介

《小児科》

新春を寿ぎご挨拶申し上げます。

あけましておめでとうございます。

平成も二十歳（はたち）となりましたが、小児科の対象患者さんは、生まれる前（産前希望相談・アドバース）から中学生迄が一般的です。少子高齢化や成人の定義が流動的な昨今、『二十歳（はたち）迄小児科医がみまいます』という構想を、小児科学会は打ち出しています。非凡な事件が日常的で、ライフスタイルも多様な今日、小児科診療はいつもフレッシュです。山城病院は、刻々新たな潮流に沿いつつ半世紀に亘る地域医療を実践、日々健闘しています。

平日午前は予約無しの一一般外来で、4名の小児科医師が曜日交代で診療します。

平日午後は、予約の特殊外来です。

【月】慢性疾患↓発育発達に関する慢性疾患など



【火】循環器疾患↓生まれつきの心臓病など

専門的予防接種↓シナジスやインフルエンザなど季節性の

ワクチン接種準備します

【水】乳児検診↓主に院内出生の

1ヶ月検診およびその後のフォロー

【木】アレルギー↓喘息・アトピー

食物アレルギーなど

【金】小児神経↓けいれん・筋疾患など

専門的予防接種↓シナジスやインフルエンザなど季節性の

ワクチン接種準備します

全国的な少子化は当地に及んでいません。当院産婦人科の健闘、分娩数・ハイリスクケースの増加、小児外科のサポートにて、当院新生児医療も濃厚になっています。

山城南医療圏の休日小児科診療は、平成18年5月から輪番制となり、土曜日は学研都市病院、日曜日は山城病院です。将来的には専属休日診療所で、地域医療人指導にて一次診療がなされ、輪番病院が入院に専従できれば、より安全・高機能と考え

ます。小児科医の高齢化は当院も進行中です。公立病院小児科閉鎖が増える中、皆様の健康長寿を支える事、即、我が事と心得、皆様に安心していただけるよう、努力邁進して参ります。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

（小児科部長 辻井 久）

豆知識

Ⅱ 64列マルチスライスCTⅡ

当院には、世界で最も高性能なCT装置である64列マルチスライスCTが導入されています。簡単に言えば、以前のCTの64倍の能力を持つCT装置です。例えば、厚さ0.5ミリ（以前のCTの20倍の精密さ）の断面を3倍以上のスピードで撮影することが可能で、それを元にした立体画像の作成も容易です。

最近では、このような高性能のCT装置が、全国的にも徐々に導入されるようになってきましたが、欠点もあります。一回数秒の検査で、通常数百枚、多いときには千枚以上の膨大な画像が作られてしまい、以前のように全ての画像をフィルムに現

像してシャウカステンで診断するということができなくなってしまう。精密な画像では、フィルムの枚数が多くなりすぎるため、結局は以前と同じ不鮮明な画像をわざわざ作成してフィルムに焼きつけ、その画像で診断している病院も多いと聞きます。

当院には、最新の電子カルテシステムが導入されており、**全ての医師が病院のどこからでも、全てのCT検査の精密画像を見ることが出来ます。**このようなことが可能な病院は、世界中を見渡してもほとんどありません。実は、このことが、当院の高度な診断レベルに大きく寄与しているのです。（放射線科 石原 潔）

